

童

2018年6月28日。

ひまわりロードのヒマワリが、子どもたちの背丈ほどになり、ぐんぐん伸び見事なひまわり並木になってきています。連日のスタッフや子ども達との草取り。ジャガイモの土寄せ、大豆やサツマイモの草マルチなどなど。大地史上一番の畑通い、畑作業の連続です。スタッフも時間があれば、草取り畑作業をしてくれま。作物は「人間の足音を聴きなながら育つ」というように、日々の暮らしの中で、共に作物と育つ毎日です。畑だけでなく、花壇や周囲の草刈りなども最盛期。草刈りがされた後の緑の光景は、凜としています。現在、草取り草刈りが行き届いて一番美しい大地の光景です。「草刈り、草取りは、大地のキャンパスに絵を描く」芸術的な作業だと思っています。

子ども達の小さな手でも、連日の地道な積み重ねで、大きな作物が育ちます。草マルチ、わら運び、剪定枝運びなども、大地の美しさを作るのに大きな力と役割です。猫の手も借りたいぐらいのこの時期、大地の大きな担い手です。

その中でも一番は、水田の今年から取り入れた無農薬栽培に欠かせないチェーン除草。これを曳く作業は、まさに子どもの感性にピッタリ一致。泥水遊び・絵画的・面白さ・誇り・目に見える成果・達成感・役立っ 全てが凝縮されていて、輝く生き生きとして魅力的な幼児にピッタリの農作業を開発発見しました。無農薬栽培を目指す水田農家に派遣したいですね。

行事や記念日やカレンダーにあるような保育（子どもの日、父や母の日、時の記念日などに合わせて作ったりする保育）ではなく、季節の暮らしの流れに沿った大地の日々の地味な暮らしですが、毎日暮らす場所、世界、環境だからこそ、子どもたちが精神的物質的な模倣をするにふさわしいものを、皆で作りに上げていくことを痛感します。それは、自然環境や物質的な環境だけでなく、人的環境、すなわち、私たち大人が、凜とした秩序ある暮らしと豊かな温かいエネルギーな人間性形成を目指して日々磨いていくことが大切ですね。大地の集う全てが美しく、ここから世界に広まって行けるように。



【妻の3度目の育児を見る】

昨年引き続き、妻の母親94歳が元気に大地へやってきました。昨年の7月3日発行の童のタイトルは、上記の通りでした。そこからの以下抜粋です。

お寺を守り続けてきたこの義母は、青ちゃんにとっては仏様であり、母親像の鏡であり、妻（ノンタン母さん）を生き育ててくれた慈愛深い母であり、妻の人間性を慈しみ形成し、私に授けてくれた人です。この義母のお蔭で、素晴らしい幸せな人生を歩んでこれました。妻が、大地で母親と共に、時を過ごしたいという希望には、この母親が大地の自然の中で穏やかに、そして妻が、親子で時をもう一度過ごせるなら、何でも精いっぱい何よりも優先してやること、今までの慈愛に答え、感謝して尽くそうと思いました。

着いた夜から、京都弁によるお世話が始められました。「寒いか」「どうえ？」「ようになったか？」ほとんど妻からの問いかけですが、それを傍らで聞きながら、結婚当初からの思いがふつふつと湧き出てきました。まさに自然な親子の姿でした。

「妻の3度目の育児」青ちゃんが言うのも気が引けますが、妻の子ども達への育児は素晴らしかったし、まさにこの母親から受け継いだものだと思います。そして、孫に対してもやはり素晴らしい慈愛のある接し方育児をしてくれます。それは、大地ミニを見ていてもわかります。そして、今回の介護と言っているのか、それとも逆転した親子関係と呼んでいいのか、妻が母親に対する慈愛あるお世話という育児か。妻の成熟した育児を、感動と涙で見て、肌で感じた一か月間でした。改めて、妻のすばらしさ、この母親から生まれた人間性を感じ、人間の育ちで大切にしなければならぬ最大ものを教えられた思いでした。その意味で、妻の育児を3度見れたことは、幸せでした。その意味でも、この母親に感謝と尊敬の念が絶えません。

教育現場と医療現場の違いを学んだことを思い出しました。教育現場では、できないことを、どうしてできないかと責め、問い詰め、受け入れず、その人のせいにする傾向がある。医療現場では、できないことを受け入れ、決して責めず、その人のせいにせず 手助けしてできるように介助して願う。ここの大きな違いがあるという。まさに、妻は、医療現場に近い子育てをしている。青ちゃんは、医療現場で今回は一か月学んだ。感謝!!

【故郷】

そんな妻と母親と一緒に、昨日お隣の「高野辰之記念館」に伺いました。近くて遠かったこの記念館。もう5、60回は横を通っているのに一度も足を踏み入れていなかった記念館（正面から見たことがなかった）。入口に立った瞬間、涙がこぼれそうになりました。まさに唱歌 故郷 もみじ 朧月夜 春の小川 春がきた の絵が全て浮かんできて、自分の幼少期の情景が愛おしく浮かんできたからです。

更に、記念館の内部の作りも、小さいころの木造校舎のように美しく、見せて頂いた映像も素晴らしく、母親は見ながら唱歌を何度も口ずさんでいました。その記念館のエネルギーの中にたたずんでいる妻と母親の姿は、まさに 故郷 そのもの、慈愛と情念と親子の絆そのものでした。特に 母親と子供の計り知れない深さ、美しさは、父親には越えられない、足を踏み入れることができない世界を感じました。まだの方は、ぜひ来館してみてください。

最後の出口の場所で昔の家族や様々な白黒の写真がありました。その紹介の文章が素敵でした。

【家族】

少子化などという言葉はなかった。家族は大ファミリーに決まっていた。じいちゃんがいてばあちゃんがいて。牛や馬も家族だから、一つ屋根の下で暮らした。記念撮影はVサインなしの緊張でいっぱい。だからいつまでも写真は色あせない。

いい意味で緊張感凜とした美しさを生みますね。だから、写真館で撮った写真は残るのでしょう。思いを残したい情景 記念には、Vサインはやっぱりやめよう!! 自然の美しさは、飽きないし永遠に美しいですね。

【働く人達】

額に汗することが一日の糧につながった時代。牛馬のごとく働いたのではなく、牛や馬とともに働いた。リヤカーになってもトラックになっても、額に汗する男も女も顔に誇りがあって、活力にみなぎっていて、カッコいい。

父親母親などの身近な人たちが、額に汗を滴らせて働いている姿を子どもたちは見たことがあるでしょうか。マラソン選手や運動選手の勝利の後のカッコいい姿はあっても、生産性のある暮らしの中では？ 勝利や鍛えるための汗ではなく、家族を背負い、暮らしの糧を背負い汗を流す大人達。日本だけでなく「大草原の小さな家」もそうですが。大きなザックを背負い家族一丸で登る登山や旅は、身近でできそうですね。これからも大人たちが大地にたくさん汗を滴らせる日々を、送っていきたくと思っています。

【子ども達】

よく遊びよく学びよく働いた子ども達。子どもの顔は時代を反映しているものだ。たとえ戦時下であっても、一生懸命生きていた大人たちを見ていた。子どもたちの顔は自然と生き生きしていた。村が子どもたちを育んだ。だから遠く離れていても「ふるさと」が愛おしい。「ふるさと」が懐かしい。

働かせないでよく学びよく学び大人親とともに遊ぶ こんな風になっていませんか。大地は、よく働く大人がいて、よく働きよく遊びよく心で学ぶ 卒業しても大人になっても「大地」が愛おしい「大地」懐かしい でありたい